

今後の気温が平年より高いことが予想されます。

細菌病類の発生を防ぐためにハウス内の温度管理を徹底しましょう。

現在の状況

- 1 昨年の育苗期の細菌病類発生面積率、籾における細菌病類の検出率はいずれも平年並である（図1）。
- 2 向こう1か月（4月10日～5月9日）の平均気温は平年並か高い見込みであり、今後も高温性の病害である細菌病類の発生に注意する必要がある。

防除対策

- 1 催芽・出芽時は、催芽・出芽器内の温度を実測して30℃を超えないように管理する。
- 2 育苗期は、特に緑化中の被覆による温度管理（日中20～25℃）に注意する（表1）。
- 3 緑化後は、育苗ハウス及びトンネルの開閉をこまめに行い、育苗温度は25℃を超えないように管理する。
- 4 育苗時の高温や過かん水は発病を助長するので避ける。
- 5 プール育苗は、細菌病類の発生を抑制するのに効果的である。
- 6 プール育苗では、緑化終了後2～3日以内に入水（水深は培土表面より下）し、第1葉が抽出し、第2葉が出始めたら十分な湛水深（培土表面より上）を確保する。
- 7 イソチアニル粒剤（箱施用剤）の播種前又は播種時（覆土前）処理を細菌病に適用のある種子消毒剤と併せて実施すると防除効果が高まる。

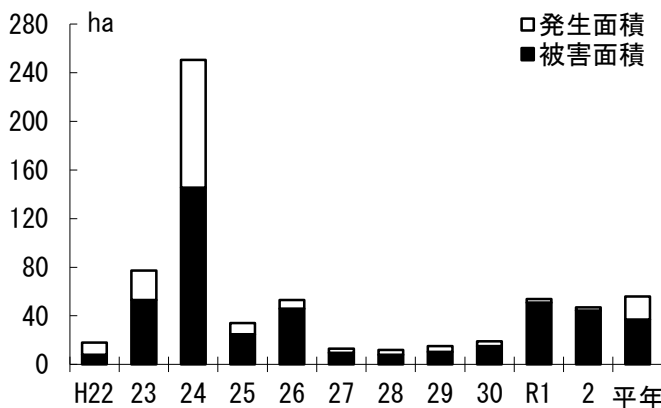


図1 細菌病類の発生面積の年次推移(市町村防除実績)

表1 細菌病類の発生と緑化期の気温との関係(R1)

緑化期間 ²⁾	発病箱率 (%)	気温 ³⁾ (℃)		
		平均	最高	最低
4/7～8	2.2	5.9	12.7	-1.3
4/11～12	1.0	4.2	11.0	-1.6
4/13～14	5.0	8.5	17.7	-0.9
4/14～15	7.7	10.0	16.9	3.7
4/15～16	3.5	10.0	15.5	4.5
4/16～17	9.1	11.0	19.6	0.8

1) 細菌病が多発したA育苗センターについて調査

2) 全ての緑化時はシルバーマルチで2日間被覆

3) 緑化期(2日間)の平均(アメダス観測値)

・令和元年は、緑化期が高温で経過した育苗ハウスにおいて細菌病が発生する事例を確認。

【利用上の注意】

本資料は、令和3年4月7日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

・農薬使用の際は(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL:0197(68)4427 FAX:0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/2003279/index.html>

